HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第二部　部局史.　アイソトープ総合センター
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 1149-1150
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28197
Type	departmental bulletin paper
File Information	hokudai125yr_tsuusetsu_1149.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アイソトープ総合センター

大学における放射線安全管理が社会的に要請された背景があり、北海道大学アイソトープ総合センターは、全国で六番目のアイソトープ総合センターとして一九七八年四月一日付けで設置が認可された。一九七八年四月に、センター長と助教授が発令された。医学部北研究棟の側にある放射性同位元素センターに準備室が設置され新築の準備が進められた。建築は文部省札幌工事事務所が担当した。科学技術庁（当時）の認可が下りるような建物でなければ工事の着工ができないということで、先発のセンターを参考にして現在の平面図を決め、使用する放射性同位元素の核種や数量を決め、承認申請に必要な放射線安全管理の計算を行い、科学技術庁の内諾が得られたので六月に工事を着工し、一九七九年三月に竣工した。建築に要した費用は、建築費二億八〇〇〇万円、設備費一億五〇〇〇万円、電気設備費七〇〇〇万円、計五億円であった。一九七八、七九、八〇年度にわたって計二億円の設備充実費が配当され、放射線測定器などを整備した。同年十一月十二日に科学技術庁からの使用承認証が交付され、十二月三日に今村成和学長を迎えてセンターの五階講義室で落成式を行い、一九八〇年四月一日に使用を開始した。

一九八〇年度に助手が配備され少人数で船出した。文部省からセンターのみならず全学の放射線管理をも指導するように要請されたが、学内的には一三番目に設置された後発放射線施設であり理解を得られない時期があった。とにかくスタッフは一生懸命に頑張った。一九八一年度に技官、ついで一九八二年度に技官が配備され、現在の陣容が整った。

一九八九年に学内の放射線障害予防規程が改正され、センターの立場が規定された。それに伴って学内での責任も重くなった。一九九六年度に放射線管理コンピュータネットワークシステムを全国で最初に整備し、全学の放射線管理を一元化するシステムを確立した。

今後、環境保全がますます重要となる。放射性同位元素の新しい利用や管理技術の発展が予想される。これからも学内の支援が必要であり、我々の努力も必要である。

（執筆　大西俊之）